グリーフサポートあいちこどもの森
活動報告速報 No.0　2019 年１２月更新
発行責任者　野々山尚志
（グリーフサポートあいちこどもの森代表）
ブログ　http://ameblo.jp/griefsaichi/
メール　griefsaichi@gmail.com

愛知で身近な人をなくしたこどものグリーフサポートはじめます

◆　グリーフサポートあいちこどもの森が大切にしていること

人はさまざまな形で喪失を体験します。その体験の中で、「悲しさ」「辛さ」「不安」「怒り」「自分を責める気持ち」など、さまざまな思いやからだの変化（グリーフ）が起こります。その喪失体験が人生の中で最もつらいことになることもあるでしょう。そのような体験はふだんなかなか人に話せないものです。けれども、あなたの話に耳を傾け、受け止め支えてくれる誰かがいれば、混乱し、抱えきれない気持ちに少しでも整理をつけることができるかもしれません。

私たちは、身近な人をなくしたグリーフを経験したこどもたちが、安心して自分の気持ちと向き合い、そこから先の人生を自分らしく歩んでいくことができるように、ほっと一息できる止まり木のような場を作りたい、また、そんなグリーフを日常的、継続的にサポートできるコミュニティを、ここ愛知で作りたいと考え、2018 年「グリーフサポートあいちこどもの森」を設立しました。

グリーフサポートあいちこどもの森　スタッフ一同

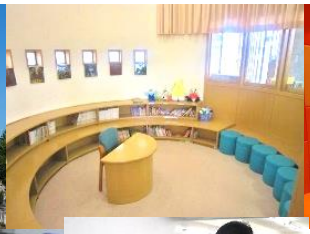
◆　グリーフサポートあいちこどもの森設立経緯

東海地区では、2002 年に大学生が中心となり、ボランティアグループ「リングＡ」が設立され、毎年１回の宿泊プログラム「たんぽぽのつどい」を開催して来ました。たんぽぽのつどいは、２泊３日の期間、親をなくしたこどもたちや学生スタッフが一緒に遊んだり、ものづくりをしたりして仲を深め、絵を描いたり話をしたりしながら、互いの生い立ちを語り合います。ここで得た仲間の存在や、少し先を歩んでいる大学生がロールモデルとなり、明日を生きるエネルギーを得ていただきました。かたぐるまやキャッチボールなど、なくなった親にしてもらえなかったことを思いっきりできたことで、こどもたちは笑顔になれます。その姿を見ている親御さんにとっても、こどもたちの笑顔はとても嬉しく、心の支えとなっていました。

学生が脈々と受け継いできた活動でしたが、2012 年から約３年間活動が停滞していました。2016 年に新たなメンバーで活動を再開するも、活動を安定的に継続させていくためには、継続して運営に携わるスタッフが必要だと思いました。また、東日本大震災以降、全国各地には子どものためのグリーフサポートを担うグループが立ち上がっています。阪神淡路大震災の後に日本国内だけでなく、世界中の支援を受けて建てた神戸レインボーハウスは、日本で初めての遺児のためのケアセンターです。東日本大震災後も仙台をはじめ、東北３か所にレインボーハウスが建てられ、日常的に身近な人をなくした子どもたちが通えるセンターがあります。

2017 年、東海地区にも、日常的、継続的にグリーフサポートにつながれる場がほしいと考え、全国でグリーフサポート団体の立ち上げ支援を行っていた「NPO 法人こどもグリーフサポートステーション」の方の協力を得ながら、東海地区でこどものグリーフサポートの拠点をつくるために準備を進めて来ました。

2018 年１月、名古屋市内で、身近な人をなくしたこどもを支えるためのボランティア養成講座を開催し、４０名を越える方が参加されました。約半数の方が、本会設立のために活動したいという意志を表明していただき、その後、毎月１回の設立準備会を行い、会の名称、活動方針、プログラムの内容やルール、会のリーフレットの制作などを行いながら、子どもとの接し方やグリーフについての学習を行い、活動をしていくための準備をして来ました。



設立記念フォーラムを開催

２０１８年１１月４日、金城学院大学音楽ホールにて設立記念フォーラムを開催しました。身近な人をなくしたこどもの気持ちを考えていただく映像をピアノとフルートの生演奏にのせて見ていただき、長年こどものグリーフサポートに携わっている、あしなが育英会東北事務所所長の西田正弘氏の講演、続いてこども時代にグリーフサポートを受けていた専門学生の恵花さんと本会代表野々山尚志との対談、これまでグリーフサポートに携わってきた本会運営スタッフの実体験、宿泊プログラム「たんぽぽのつどい」に参加した親御さんからの手紙、本会の活動方針…と、盛りだくさんの内容でした。

新聞各紙でも取り上げていただき、８０名を超える方々にご参集いただきました。

「グリーフサポートあいちこどもの森」活動の４本柱

①身近な人との死別を経験したこども達が集い、様々な気持ちや経験を表現したり、分かち合ったりする「グリーフプログラム」を行います。こどもだけでなく、保護者同士が出会う場にもします。
②死別体験をしたこどものグリーフを手助けするファシリテーターの養成・研修事業を行います。
③講演会やワークショップなど、広く一般市民にグリーフサポートの普及と啓発を行うための事業を行います。
④関連団体が主催する事業に共催・協力し、他団体とのネットワークを構築します。

ワンデイプログラム参加者募集!!

２０１９年3月より、季節に１回ワンデイプログラムを開催しています。場所は金城学院大学 KIDS センターで開催しました。身近な人をなくした小学１年生から高校３年生とその保護者（死因・時期・続柄は問いません）が対象で、子どもの定員は 15 名程度。右の QR コードを読み取り、必要事項をご記入の上送信してお申込みください。

第１回２０１９年3月3日（日）小学生４名、中学生１名、高校生３名、保護者等５名参加。
第２回２０１９年６月９日（日）小学生９名、中学生２名、高校生３名、保護者８名参加。
第３回２０１９年8月３１日（土）小学生7名、中学生2名、保護者等７名参加。
第４回２０１９年１１月２４日（日）小学生３名、中学生１名、高校生１名、保護者３名参加。
第５回は、２０２０年3月１日（日）１２時４５分受付開始、１３時からの開催予定です。場所は、今回も金城学院大学 KIDS センターをお借りしています。

参加申込の QR コード

ご支援・ご協力のお願い

本会の活動は、みなさまのご寄付で成り立っています。ご支援よろしくお願いします。また、お知り合いの方にこどもの森の情報をお届けください。

ゆうちょ振替口座番号
00890-4-137412

ゆうちょ銀行
当座〇八九店（ゼロハチキュウ）　137412

アメブロの QR コード　Facebook の QR コード

※書き損じハガキでのご協力も承っています。

リーフレットの配布

本会の活動を紹介するリーフレットを配付していただけ方は、本会までご連絡ください。

その他

プログラムのお手伝い、HP の作成、事務のお手伝い等、様々な形でのご協力を募っています。ご連絡ください。

グリーフサポートあいち こどもの森

グリーフサポートあいちこどもの森
活動報告速報 No.1　2019 年３月９日発行
発行責任者　野々山尚志
（グリーフサポートあいちこどもの森代表）
ブログ　http://ameblo.jp/griefsaichi/
メール　griefsaichi@gmail.com

2019 年３月３日日曜日、第１回ワンデイプログラムを開催しました。小雨が降るあいにくのお天気でしたが、小学生４名、中学生１名、高校生３名、保護者等５名の参加がありました。スタッフは 14 名と仙台の子どもグリーフサポートステーション事務局長の相澤さんに来ていただきました。

子どもたちは、ファシリテーターや他の参加者と一緒に過ごし、トランプやジェンガなどのおもちゃで遊んだり、工作をしたり、テントの中でパンチングしたり、みんなとお話をしたりしました。保護者等のグループは、子どもたちと少し離れた場所で、それぞれのお話をしました。

いい時間が作れるかな、どんな集まりになるかな？等、不安と楽しみと複雑な気持ちで迎えた第１回ワンデイプログラムでしたが、こうして無事に終わることができたことをありがたく思います。

「やくそくごと」各部屋に掲示しました

午前中に準備をしている様子です

自由に使えるように工作用セット

お絵かきができるようにセット

はじめに輪を囲み自己紹介をしました

工作の見本もいっしょに並べました

保護者のみなさんはここでお話しました

テントの中でパンチングとぬいぐるみで暴れました

力作「海賊船」!!

会場の様子が写真で伝わるでしょうか。参加者の皆さんが来る前に準備した工作セット、マットを敷いた部屋、外にはテントを張り、その中では暴れられる場所を作りました。最後の写真は参加者の小学生がダンボールで作った「海賊船」です。力作ですね！（本人および保護者の掲載許可をいただいています）

これまで活動へのご支援をいただいた皆様、準備をしてきた運営委員・スタッフ、参加者の皆様、情宣にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。次回第２回は６月に開催予定です。

グリーフサポートあいちこどもの森
活動報告速報 No.2　2019 年４月８日発行
発行責任者　野々山尚志
（グリーフサポートあいちこどもの森代表）
ブログ　http://ameblo.jp/griefsaichi/
メール　griefsaichi@gmail.com

長久手いのちの学校

2019 年３月 23 日（土）長久手市役所で開催されました「長久手いのちの学校・スプリングスクール」に運営委員の山田恵子、加納美緒が参加させていただきました。

「長久手いのちの学校」とは、子どもからお年寄りまで、すべての長久手市民が、「いのち」の大切さを考える機会を創出し、自分らしく生きる人があふれる長久手市にすることを目的として事業を行っています。今回のスプリングスクールに参加しませんかと、運営されている方から声をかけていただきました。

私たちは、広く「こどもの森」の活動を知っていただき、他団体と協力できるようなネットワークを構築できるように心がけました。子どもから大人まで楽しめる遊びやお話、学びがたくさんあるイベントでした。以下は参加したスタッフの感想です。

「現在闘病していたり、家族として支えていたりしながら、今を過ごすことに前向きな人たちがたくさんいました。自分の持つ役割や使命、パワーを周りに配り、また自分も他から受け取る。ひとりでは進めないから、周りと共感し合いながら生きていく、そんな方々が集まる場でした。」こうしていろいろな方と繋がれたことに感謝いたします。今後も、他団体とのつながりを大切にしていきたいと思います。

また、この御縁で、５月２１日放送予定のラジオ「ゆめのたね放送局」に山田恵子が出演しました。

たんぽぽのつどい 2019

2019 年３月 22 日（金）～３月 25 日（月）たんぽぽのつどい 2019 に本会スタッフが参加しました。この事業は、2003 年から毎年春に行っている、宿泊のグリーフプログラムです。こどもの森発足の原点ともなった活動で、学生が主体となって企画しています。以下、参加したスタッフの感想です。

◆たんぽぽのつどいの空気が愛情にあふれていたから子どもたちは心を開くことができたのかなと思いました。担当した小学生の子は、私たちが「寄り添う」ことで信頼してくれていると感じました。本気で子どものことを考えて接することが大切だと感じました。たった３日間でも、心を込めて接すれば、子どもはこんなに変わってくれるんだ！と感動しました。【こーみー】

◆約一年ぶりに会えた子どもの心身ともに成長した姿を見られて感動しました。初参加の子は、自分の素をさらけ出してくれていたのではないかと思います。今回「来年はお兄ちゃんたちと一緒に寝たい」と言っていたことを聞き、とても嬉しく感じました。【すーさん】

◆ある小学５年生の男の子は、開会式の時点では、誰とも目を合わせようとせず、隣にいる大学生が話しかけても反応が無く、自分の場所からどこか冷めたような表情でした。お話をしたり、遊ぶ時間を過ごしたりしていくうち、２日目には自分から大学生に話をするようになりました。初参加の中学生の子も、来た当初は本当に表情が硬く、壁があるような感じでした。最近お母さんをなくされて、初めて来る場所はとても不安だったと思います。班に分かれて誰をどのように亡くしたのかをお話し、徐々に周りの大学生や子どもに打ち解けていき、表情も明るくなっていきました。不安を抱いていた子も、この場所、この人たちなら大丈夫と感じてくれたことで、このような様子が見れたのかなと感じました。たんぽぽのつどいが、何かしらの居場所になって、いつでも戻って来られる場所になっていけたらいいなと思います。私にとっても大切で大好きな時間と空間であるたんぽぽのつどいに、今年もスタッフとして参加することができて本当に良かったです。【ちはるん】

◆今回私は年長さんの女の子を担当しました。最初こそ分厚い壁を感じるほど人見知りの彼女が、時間が経つにつれて自分から手を繋いできたり、幼稚園のこと、家族のこと、そしてなくなったお父さんのことを、ゆっくりと言葉を紡ぎながら話をしてくれたりしました。特に印象的だったのは、彼女と海に行ったことです。その子のお父さんは海での事故でなくなってしまったため、彼女にとって海は怖い場所だったそうです。ですが今回のたんぽぽのつどいで、お父さんがなくなって以来初めての海に自分の足でむかい、貝殻を拾ったり砂で遊んだりしました。

父親がなくなったという事実は変わることはないけれど、人との関わりや成長の中で、子どもはその事実と少しずつ向かい合い、物語を何度も何度もその時の視点で読み直していく力があるのだと感じました。そして、その力を信じて支えていくために、たんぽぽのつどいやこどもの森の場で彼女たちを見守り続けていきたいと改めて感じました。【あかね】

（掲載には保護者の許可をいただいております）

グリーフサポートあいち こどもの森
活動報告速報 No.3　2019 年 6 月 4 日発行
発行責任者　野々山尚志
（グリーフサポートあいちこどもの森代表）
ブログ　http://ameblo.jp/griefsaichi/
メール　griefsaichi@gmail.com

友好 MIDORI ライオンズクラブ様よりご支援いただきました
（名古屋緑ライオンズクラブ、稲沢緑ライオンズクラブ、横浜緑ライオンズクラブ）

ご報告が大変遅くなりましたが、本会の活動は、応援してくださる方の寄附とイベント等の参加費によって成り立っています。2018 年 11 月の設立記念フォーラム以降、多くの方から温かいご寄附をいただきました。また、本会発足当初、名古屋緑ライオンズクラブ会長様よりお声がけいただき、今回の御縁がありましたのでご紹介させていただきます。

名古屋緑ライオンズクラブ、稲沢緑ライオンズクラブ、横浜緑ライオンズクラブの３団体は、同じ社会奉仕団体ライオンズクラブの中の「みどり」の名が付くということで、友好 MIDORI 合同例会を毎年開催しています。ライオンズクラブのモットー〝We Serve〟（われわれは奉仕する）のアクティビティとして、今回、各クラブから 15 万円ずつ、合計 45 万円の寄附を本会にいただきました。去る４月 10 日の合同例会において、贈呈式が行われ、本会代表野々山尚志と理事多島千晴が参加しました。代表より本会の活動についてお話をさせていただいた後、感謝状をお送りさせていただきました。その後、会員の皆様と直接お話する機会があり、お一人お一人がとてもあたたかく、感動いたしました。応援してくださる方々の思いに触れ、改めて、身の引き締まる思いになりました。

こどもの森が発足して約半年、友好 MIDORI ライオンズクラブの皆様をはじめ、多くの方々のあたたかいご理解とご協力のおかげでここまで来られました。本当にありがとうございました。

ファシリテーターフォローアップ研修

2019 年 6 月 1 日午後に、名古屋市内で、子どもをサポートするスタッフ（ファシリテーター）のフォローアップ研修を開催しました。

「こどもの森」のワンデイプログラムでファシリテーターとして活動するためには、ファシリテーター養成講座を必ず受講しなければなりません。今回のスキルアップ研修では、子どものグリーフサポートに長く携わっていて、私たちも大変お世話になっている防衛医科大学校教授の高橋聡美さんにお越しいただきました。ファシリテーター養成講座は受けたけど、なかなか実践の場がなく心配だったこと、不安や疑問に思ったこと、第１回ワンデイプログラムにおける自身の反省点などを出し合い、たくさんアドバイスをいただきました。ファシリテーターとして大切なことをもう一度振り返り、ワンデイプログラムを運営する上での注意点をもう一度確認することができました。第２回ワンデイプログラムにすぐにつながるような充実した研修となりました。

ご支援・ご協力をお願いいたします
銀行からは…銀行名：ゆうちょ銀行　店名：〇八九（ゼロハチキユウ）店　　店番：０８９
口座名義：グリーフサポートあいちこどもの森　口座種別：当座　口座番号：0137412
ゆうちょ銀行からは…００８９０－４－１３７４１２

グリーフサポートあいち
こどもの森

グリーフサポートあいちこどもの森
活動報告速報 No.4　2019 年 6 月 18 日発行
発行責任者　野々山尚志
（グリーフサポートあいちこどもの森代表）
ブログ　http://ameblo.jp/griefsaichi/
メール　griefsaichi@gmail.com

第２回ワンデイプログラム開催

2019 年6月9日日曜日、第2回ワンデイプログラムを開催しました。参加者は、小学生 9 名、中学生 2 名、高校生 3 名、保護者 8 名の計 22 名で、スタッフは 18 名でした。

午前中の運営委員会では、新しいスタッフも加わり、午後の会場準備、遊び場の設営、ファシリテーターとして気を付ける事の確認等をしました。

午前中は雨が降り続いていて、前回に続き外で遊べないかと心配になりました。スタッフ皆で「雨が止みますように」と祈っていました。雨だと外で遊べないことだけでなく、今回はおやつの時間に「カートンドック」を作る企画をしていたため、絶対に止んでほしかったのです。

「カートンドック」とは、パンにキャベツとソーセージをはさんだホットドックをアルミホイルで包み、牛乳パックに入れ、牛乳パックに火をつけて燃え終わると、温かいホットドックが出来上がる！というものです。会場である KIDS センターの裏には自然がたくさんあります。少しならば火を使う事もできます。皆で作って楽しみたいと思っていました。祈りが通じたのか、「おやつの時間」までには雨が止み、予定通り「カートンドック」を作ることができました。しっかりアルミホイルで包んでいないとパンが焦げてしまうということもありましたが、これもまた思い出の味となったのではないでしょうか。

自然に囲まれた会場で、森を散策したり、いつもはちょっとできないような事を今後も企画していきたいと思っています。

午前中の運営委員会の様子です

今回は、紙に自由に絵を描ける場所をつくってみました

高校生は進路の相談　みんなでパンにキャベツとソーセージをはさんでカートンドッグ作り　トランプしたり絵を描いたり

（写真を掲載させていただいた方には本人の許可をいただいております）

第３回ワンデイプログラムのお知らせ

日時：２０１９年８月３１日（土）12:45 受付、13:00～16:15
場所：金城学院大学 KIDS センター
対象：身近な人をなくした小学１年生から高校３年生とその保護者
定員：15 名程度　参加方法：右の QR コードを読み取り、必要事項をご記入の上送信してください。

ファシリテーター養成講座の開催

２０１９年8月１７日（土）、１８日（日）に、本会スタッフの新規募集も兼ねて、身近な人をなくした子どもをサポートするファシリテーター養成講座を開催します。場所は金城学院大学 KIDS センターを予定。２日間全日程の参加が条件です。詳細は後日ブログにてお知らせ致します。

グリーフサポートあいち こどもの森

グリーフサポートあいちこどもの森
活動報告速報 No.5　2019 年９月１７日発行
発行責任者　野々山尚志
（グリーフサポートあいちこどもの森代表）
ブログ　http://ameblo.jp/griefsaichi/
メール　griefsaichi@gmail.com

第３回ワンデイプログラム開催

2019 年８月 31 日土曜日、第３回ワンデイプログラムを開催しました。午前中は雨が降るあいにくのお天気でしたが、小学生７名、中学生２名、保護者等７名の参加がありました。スタッフは１５名。

今回は「夏らしいことをしよう」とスイカ割りの用意をしていました。しかし、晴れたり曇ったり、雨が突然降ったと思ったらすぐに止んだりというお天気で、もし雨が降っていたら…と、前回と同じような心配をしましたが、幸運にも時間までに雨は止んでいました。

子どもたちが棒をもって目隠しをして回ったり跳ねたりしてからスイカ割りに挑戦しました。みんなで「もう少し前だよ！」「右ー!!」などと声をかけ合いました。スイカ割りは、たくさんの人がいるから楽しめるんですね。割られたスイカは、食べやすく切り分けて、いただきました。スイカが苦手だという人も美味しく食べていて、特別な味だったようです。外で食べたので、種を裏の森に飛ばしていた子もいました。来年の夏には森にスイカができているなんてことも？！

来てくださる方に安心して過ごしていただけるよう、毎回の出来事を振り返り、次回につなげていきたいと思います。

はじまりの輪でみんなが身近な人を亡くしたことを共有した上で、遊びや語り合いをします。３回目ということもあり、ダンボールなどで、亡くなったお父さんとの思い出の品を作る子、スタッフと１対１で体験を語り始める子もいました。

ファシリテーター（ボランティア）養成講座開催

２０１９年8月１７日土曜、１８日日曜の２日間にわたり「身近な人をなくした子どもを支えるファシリテーター養成講座」を開催しました。初受講 17 名、再受講スタッフ６名の計 23 名が参加しました。ファシリテーターの役割は、身近な人をなくした子どもたちと一緒に過ごし、その場にいるみんなが安心・安全な場を作ることです。今回、高橋聡美さん（防衛医科大学校看護学部教授）に来ていただき、たくさんの学びを得ました。

『ファシリテーターに肩書は大事ではなく、大事なのは安心、安全を一緒にいる子どもに作れること。』私たちはワンデイプログラムの始まりの時間に、子どもたちと一緒に輪になって自己紹介をし、誰を亡くしたかを共有します。特別な場、安心できる場であることを感じてもらい、自由に遊んだり、お話したりします。自分も大事、相手も大事ーこれらのことを、会話や遊びのロールプレイングをして学びました。相手の話に耳を傾け、話を聞いてもらったらどんな気持ちになるかをシェアしたりもしました。子どもの立場になってみて気づくこともたくさんありました。自身のグリーフを振り返る時間もありましたが、初めて会った参加者同士で、たくさんの話ができたのも、ここに集った方たちの思いが、安心できる場を作りたいという思いだったからだと思います。次回のワンデイプログラムからは、新しいスタッフを迎えて開催します。

今回の養成講座は、いつもワンデイプログラムを開催している金城学院大学 KIDS センターで開催できたことも、安心できる場につながったのだと思います。改めて、金城学院大学への感謝の気持ちでいっぱいです。

第4回ワンデイプログラムは、2019 年 11 月 24 日（日）12:45 受付 13:00～16:15@金城学院大学 KIDS センターです